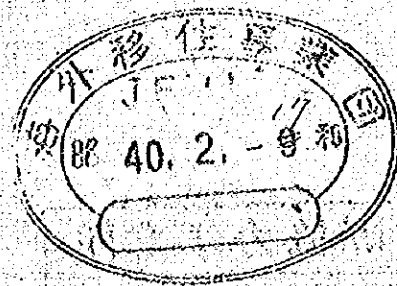


0-2/

1963年度

試験成績書



海外移住事業団サンクトルズ支部

サンフアン試験農場

JICA
国際協力
LIBRARY

国際協力事業団

受入 月日	'84.8.20	702
		80.7
登録No.	13133	EM

目 次		
	気象表	1 頁
I	米品種試験	2 頁
II	大豆品種試験	6 頁
III	コ-ヒ-植付株当本数試験	9 頁
IV	馬鈴薯栽培試験	12 頁
V	稻の殺草剤に關する試験	14 頁
VI	継続中の試験	18 頁
VII	品種保存栽培	19 頁

JICA LIBRARY



1054374[2]

1963年月別気象表

サンフェン試験農場

種目		月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	
気	各時平均	7時	22.4	22.5	21.4	20.4	17.1	16.9	17.5	17.8	19.6	22.0	22.1	23.3	20.3	
		12時	27.8	29.0	27.0	28.9	26.1	24.2	25.8	27.6	28.3	30.4	28.1	29.8	27.8	
		17時	28.8	29.1	27.6	27.8	24.8	23.2	25.2	27.0	27.5	29.4	27.9	29.5	27.3	
	最高平均			31.0	32.1	29.9	31.2	25.1	26.2	28.1	30.1	31.2	33.2	30.6	32.1	30.1
	最低平均			21.6	21.8	20.3	19.1	16.7	15.9	15.7	16.8	18.1	20.0	20.2	20.5	18.9
	日平均			26.3	27.0	25.1	25.2	20.9	21.1	21.9	23.5	24.7	26.6	25.4	26.3	24.5
	温 (C)	絶対最高		35.5	36.0	35.5	33.0	32.0	31.0	31.0	36.0	36.0	38.0	36.0	37.0	34.8
絶対最低		19.0	19.0	14.0	14.0	11.0	10.0	6.0	7.0	9.0	14.0	13.0	14.0	12.5		
雨量		(mm)	304.0	328.0	361.7	20.8	27.8	135.9	26.3	32.0	120.7	104.4	213.1	185.0	計 1919.7	

[米品種試験]

(1) 目的

多収で品質良好な市場性の高い米の品種を選出する。

(2) 試験の方法

(i) 供試品種

ブラジル種, 日本種等 24 種

(ii) 試験区面積及区制

1 区 20 m², 1 区制

(iii) 耕種の概要

畦巾: 1 m の条播とし発芽後 11 月 26 日と 12 月 5 日に間引きして株間を 10 ~ 15 cm とした。

肥料: 配合肥料 (15 : 15 : 15) を 1 区当り 200 g 元肥として施した。

農薬: BHC を 12 月 2 日, 1 月 6 日, 1 月 20 日, 2 月 1 日に撒布した。

(3) 試験の経過

播種後発芽良好で生育は順調であった。圃場或はその周辺にカメムシ及び葉喰虫 (*Laphygma frugiperda*, Smith) の発生を見られたので BHC の撒布を行った。2 月 18 日に降雨を伴った強風が吹いて結実中の稲は倒伏を見た。

(4) 試験成績

(i) 生育調査

品種名	播種期	草丈 cm	稈長 cm	出穂始	出穂期	穂揃期	出穂日数	穂揃日数	成熟期	成熟日数	耐病性	備考
Amarelon	11. 5 ^日	175.8	146.7	2. 6 ^日	2. 15 ^日	2. 18 ^日	10.2 ^日	12 ^日	3. 16 ^日	30 ^日	はいちい弱	以下 2 m ² 平均値

品種名	播種期	草丈 cm	稈長 cm	出穂始	出穂期	穂揃期	出穂日数	穂揃日数	成熟期	成熟日数	耐病性	備考
Perola	1963. 11.5	200.3	169.0	2月6日	2月15日	2月18日	102日	12日	3月16日	30日		2月18日倒伏
Pratao	"	148.2	114.0	1.18	1.22	1.24	78 109	6	2.21	30		
Venezuela	"	181.6	151.7	2.3	2.15	2.18	102	15	3.16	30		2月18日倒伏
Noventa dia Cebalado	"	148.7	112.3	1.18	1.22	1.26	78 109	8	2.21	30		
Noventa dia Blanco	"	142.1	111.3	1.20	1.27	2.1	83 114	12	2.28	32		
Iguape-aguina	"	161.4	133.3	2.6	2.15	2.18	102	12	3.16	30		
Dourado A.	"	161.7	131.9	2.6	2.24	2.26	111	20	3.16	21		
Dourado B.	"	159.5	133.5	2.3	2.13	2.18	100	15	3.11	27		
V- No. 3	"	176.3	140.8	2.4	2.15	2.18	102	14	3.16	30	はくびに弱い	
NO.113 7-V-8	"	148.8	122.3	2.3	2.13	2.18	100	15	3.11	27		
Foitures	"	174.2	133.4	2.6	2.24	2.26	111	20	3.16	21		
Sun Bonnet	"	159.1	135.5	2.4	2.20	2.26	107	22	3.16	25		
356 S/N	"	171.4	141.7	2.6	2.13	2.16	100	10	3.11	27		2月18日倒伏
Lecrosse	"	139.9	103.9	1.26	2.1	2.7	88	12	3.4	32		2月18日倒伏
435 S/N	"	164.9	141.3	2.6	2.13	2.18	100	12	3.16	32		2月18日倒伏
Cateto	"	160.2	124.8	2.13	2.20	2.26	107	13	3.16	25		
Palo Molado	"	146.9	126.3	2.4	2.15	2.18	102	14	3.16	30		2月18日倒伏
Iguape	"	160.7	129.9	2.6	2.15	2.19	102	13	3.11	25		2月18日倒伏
台中 65号	"	123.5	105.6	1.29	2.7	2.10	94	10	3.16	38		
農林 11号	"	130.5	103.0	1.27	2.1	2.4	88	6	2.28	27		
農林 21号	"	118.9	90.2	1.13	1.17	1.19	93	6	2.21	33	はくびに弱い	1月16日少し倒伏
農林糯 25号	"	116.2	95.7	1.12	1.17	1.19	93	7	2.21	33	はくびに弱い	1月16日少し倒伏
みはみは尺もち	"	127.6	110.8	1.27	2.1	2.4	88	6	2.28	27		

(四) 收穫調査

品 種 名	2m ² 全穂数	2m ² 遅穂数	2m ² 有効穂数	平均 穂長	1 穂 総実粒数	2m ² 生穂重	2m ² 乾燥穂重	2m ² 全粒重	2m ² 精粒重	2m ² 米比重	精粒重 歩合	精 粒 重 1000粒重	芒 有 無	芒の長短 色	脱 粒 の 難 易
Amanelon	164	13	151	26.0	118.2	837 ^g	800 ^g	707 ^g	680 ^g	27 ^g	96.1 [%]	36.0 ^g	無		易
Pinola	198	23	175	26.6	121.6	956	830	780	760	20	97.4	35.5	無		易
Pratão	209	27	182	27.6	105.0	1080	752	719	700	19	97.3	38.0	無		易
Venezuela	212	14	198	25.9	118.5	1072	1030	783	760	23	97.1	38.0	無		易
Noventa día Colorado	174	6	168	27.3	138.2	980	747	720	700	20	97.2	37.0	無		易
Noventa día Blanco	179	16	163	27.5	125.4	920	746	713	680	33	95.3	28.0	無		易
Iguapé aguina	113	8	105	27.6	166.7	708	600	530	520	10	98.1	34.0	無		易
Dourado A	145	13	132	22.1	126.7	807	700	674	660	14	97.7	38.0	有	短, 黄白	中
Dourado B	136	11	125	24.9	120.4	657	588	557	540	17	96.7	37.0	無		易
V-NU.3	134	10	124	30.0	76.9	593	500	487	470	17	96.5	40.5	有	短, 黄	易
NO.113 7-V-8	75	5	70	25.1	147.1	411	334	305	297	8	97.3	32.0	無		易
Fortuna	113	31	82	31.4	157.2	712	600	561	540	21	96.2	34.0	有	短, 紫	易
Sun Bonnet	136	38	98	27.3	181.1	687	580	537	520	19	96.4	24.5	有	短, 黄	易
356 S/N	168	31	137	25.8	137.7	664	573	543	477	46	91.5	27.0	無		易
Lecrosse	193	28	165	27.1	177.6	825	664	628	577	51	91.8	24.0	無		易
435 S/N	177	7	170	24.7	213.2	1172	1050	993	970	23	97.6	26.5	無		易
Catelo	175	24	151	24.5	131.2	972	850	814	800	14	98.2	38.0	有	短, 黄	易
Palo Molado	171	18	153	23.9	177.7	963	850	826	810	16	98.0	26.0	無		中
Iguapé	137	19	118	25.0	120.2	766	621	587	545	44	92.5	32.0	無		易
台中 65号	286	15	271	21.7	115.8	1023	850	811	800	11	98.6	26.5	無		難
農林 11号	198	21	177	25.7	187.3	1135	870	861	806	55	93.6	27.0	有	中, 黄	難
農林 21号	215	35	180	20.1	106.7	730	643	614	601	13	97.8	28.0	有	長, 紫	難
農林 25号	221	26	195	20.4	102.4	770	657	628	610	18	97.1	30.0	有	短, 黄	難
台中 11号	187	13	174	24.1	154.8	1110	850	783	721	62	92.0	27.0	有	中, 黄	難

(5) 考察

生育においてはほぼ順調に経過していたが2月18日の強風で倒伏したものがあつた。品種によつては条播であるため株間
が狭きに失したことも倒伏の原因と思われる。

カメムシ、葉喰虫の発生、来襲は激甚であつて放置すれば収量は半減以下になるであろう。薬剤撒布を絶対必要とする。

いもち病は一般に日本種が抵抗性弱く特にほくびいもちの被害が多かつた。但し台中65号は抵抗性大である。現地種では
AmarelonとV-No.3がいもちに弱いことがわかる。

収穫にたいしては早生種ではPrataoとNoventa día Coloradoが共に好成績を示している。この両品種は現在移住地でも作られ
ているものである。中生、晩生種においては収量の多いものはVenezuela, 435 SN, Cateto, Palo Molado, 台中65号
農林11号であるが当地では米粒の大きなものが高値であるのでその中ではVenezuelaとCatetoが優れている。移住地では
Dourado, Amarelon, Perolaが多く作られているが将来VenezuelaとCatetoを加える必要がある。特にAmarelonは、いもち
ちに弱いので栽培を控える方がよからう。日本種は米粒が小さいので日本人の消費以上には伸びる見込みがない。

大豆品種試験

(1) 目的

多収で品種良好、特に含油量の多い品種を選出する。

(2) 試験方法

(i) 供試品種

Avanga 他12品種

(ii) 試験区面積及び区割

1区10m², 2区割

(iii) 耕種概要

畦巾: 100cm x 15cm, 条播にして発芽後株間約15cmに1本立とした。

肥料: 無肥料栽培

農薬: B.H.C 撒布 1月6日, 1月18日, 2月1日

(3) 試験の経過

生育期間が雨季になるのがモザイク様な葉の萎縮が早生種を除く全品種に発現した。1月に葉喰虫 (*Lophygma frugiperda* Smith) の発生を見た。全般に紫斑病の発生多く、この時期の栽培は不相当と見られた。

(4) 試験成績

(3) 生育調査

品種名	播種期	発芽始	開花始	開花期	開花終	開花日数	黄葉期	落葉期	成熟期	結実日数	生育日数	草丈	茎の太さ	分枝数
Aranga	12.21	12.26	1.30	2.10	2.15	51	4.5	4.10	4.28	77	128	47.3cm	1.22cm	3.9
Mojana 411	"	"	1.29	2.10	2.14	51	4.5	4.10	4.28	77	128	44.9	1.07	3.8
Abarra	"	"	1.30	2.12	2.26	53	4.5	4.16	5.6	83	136	83.3	1.02	8.5
Eng Brachel	"	"	1.29	2.10	2.15	51	4.5	4.16	5.6	85	136	52.9	1.04	5.7
Pehcano	"	"	2.4	2.10	2.16	51	4.5	4.16	5.6	85	136	59.7	1.04	4.3
Araga Touga	"	"	1.30	2.12	2.15	53	4.5	4.19	5.6	83	136	60.1	1.00	5.9
Colmena I	"	"	1.29	2.11	2.15	52	4.5	4.19	5.6	84	136	44.0	0.91	6.5
パラグワイ早生	"	"	1.29	2.4	2.10	45	3.17	3.28	4.8	63	108	41.2	0.79	5.1
パラグワイ晩生	"	"	2.3	2.16	2.28	57	4.8	4.19	5.6	79	136	80.4	1.11	7.5
Colmena J	"	"	1.29	2.10	2.15	51	4.3	4.10	4.28	77	128	40.6	1.10	6.8
沖縄早生	"	12.25	1.25	1.30	2.5	40	2.18	2.25	3.31	60	100	30.9	0.73	5.9
サンファニ中生	"	"	2.12	2.19	2.25	60	4.3	4.7	4.28	68	128	79.0	1.22	7.7
サンファニ晩生	"	"	2.15	2.23	2.29	64	4.3	4.7	4.28	64	128	80.9	1.19	6.4

(4) 収穫調査 (10株平均)

品種名	1株全重	1株莢重	1株莢重	1株莢数	1株粒数	1株良粒重	1株屑粒重	紫斑病発生	良粒重 100粒重	備考
Aranga	180.8	95.8	85.8	99.2	187.4	41.98	2.48	中	25.08	開花期頃から葉に異状を呈す。
Mojana 411	140	60	80	71.7	127.8	32.1	1.8	多	28.5	"
Abarra	265	81	184	227.4	352.1	45.8	7.0	中	17.5	"
Eng Brachel	210	85	125	111.3	196.0	30.5	11.0	中	27.0	"
Pehcano	220	85	135	103.7	172.4	39.8	8.4	多	30.0	"
Araga Touga	250	80	170	129.3	189.4	23.5	15.8	多	28.5	"
Colmena I	165	70	95	101.3	187.5	25.0	17.4	甚多	28.0	"
パラグワイ早生	80	35	45	58.2	14.4	17.1	0.6	少	23.5	"

品種名	1株全重	1株莢重	1株莖重	1株莢数	1株粒数	1株良粒重	1株屑粒重	紫斑病発生	良粒重 100粒重	備考
Colmena J.	170 ^g	70 ^g	100 ^g	82.8	154.4	34.8 ^g	2.6 ^g	多	27.5 ^g	開花期頃から葉に異状を呈す。
パラグアイ晩生	270 ^g	110	180 ^g	172.7	259.3	25.9	30.5	多	28.0	〃
沖繩早生	40	25	15	43.5	91.3	3.5	7.2	少	19.0	成熟期から雨季の大豆が腐敗した。
サンファニ中生	250	80	175	13.7	232.3	43.0	3.6	少	21.0	開花期頃から葉に異状を呈す。
サンファニ晩生	180	65	115	107.7	194.8	34.5	3.3	少	20.5	〃

(5) 考察

栽培期間が雨季に当るので湿害と見られる葉の異状が沖繩早生を除く全品種に現われた。この異状はモザイク病であるか或は微量元素の不足によるものであるかを確かめるため、その種子を本年(1964年)乾燥期に播いて観察しているが異状が認められず、又土壌分析の結果、微量元素は含有されていることが判明したので原因は他にあるものと考えられる。ネマトーダ等についても追究の必要がある。

なお、葉の異状の外に収穫された大豆に紫斑粒が多く、いずれにせよ雨季の大豆栽培は適当でないも考える。含油量の調査は本年は実施出来なかった。

コ-ヒ- 植付株当本数試験

1) 目的

コ-ヒ-定植の場合に一株に何本植えたものが生育、収量において適当であるかを知る。

2) 試験方法

(イ) 供試品種

ブラジル種 "Mundo Nuevo"

(ロ) 試験区及び区制

1株当り1本植, 2本植, 3本植, 4本植の4区。

(ハ) 耕種概要

畝巾株間: 4m x 4m 各区20株 (庇陰樹を配せず)

定植: 1961年7月

肥料: 無肥料栽培

農薬: ミドリカイガラムシの発生にホリドール撒布を行った。

試験の経過

育苗して定植したものがブラジル式播種方法ではないか生育は極めて良好で1963年に少量の結実を見、本年が第2回目の収穫である。

(4) 試驗成績

區別	收穫月日	生果重 (A)	乾果重 (B)	市場J-C-重 (C)	(B)/(A) × 100	(C)/(B) × 100	(C)/(A) × 100	市場J-C-100粒重	備考
1本植 (5株計)	1月18日	0.420 kg	0.143 kg	0.080 kg	34.0 %	55.9 %	19.0 %	15.0 g	
	2月14日	0.650	0.255	0.110	39.2	44.0	16.9	13.5	
	4月2日	13.200	5.600	2.900	42.4	51.7	21.9	13.0	
	4月21日	17.800	6.200	2.800	34.8	45.1	15.7	12.0	
	6月5日	1.800	0.900	0.550	50.0	61.1	30.5	15.0	
	計(平均)	33.870	13.078	6.440	38.7	49.1	19.0	13.7	
	1株平均	6.774	2.620	1.288					
2本植 (5株計)	1月18日	0.720	0.215	0.120	29.8	55.8	16.6	14.0	
	2月14日	1.250	0.375	0.200	30.0	53.3	16.0	12.0	
	4月2日	15.900	6.500	3.350	40.8	51.5	21.0	13.0	
	4月21日	27.800	9.600	5.180	34.5	53.9	18.6	13.5	
	6月5日	4.300	1.600	0.750	37.2	46.8	17.4	14.0	
	計(平均)	49.970	18.290	9.600	36.6	52.4	19.2	13.3	
	1株平均	9.994	3.658	1.920					
3本植 (5株計)	1月18日	2.100	0.580	0.280	27.6	48.2	13.3	13.0	
	2月14日	1.750	0.560	0.280	32.0	50.0	16.0	13.0	
	4月2日	20.200	8.600	4.350	42.5	50.5	21.5	13.5	
	4月21日	28.800	10.400	5.600	36.1	53.8	19.4	14.0	
	6月5日	3.200	2.100	0.850	65.6	40.4	26.5	14.5	
	計(平均)	56.050	22.240	11.360	39.6	51.1	20.2	13.6	
	1株平均	11.210	4.448	2.272					
4本植 (5株計)	1月18日	1.650	0.475	0.260	28.7	54.7	15.7	14.0	
	2月14日	1.880	0.570	0.300	30.3	52.6	15.9	13.0	
	4月2日	22.300	9.400	4.750	42.1	50.5	21.3	15.0	
	4月21日	26.800	7.400	4.750	27.6	64.1	19.9	14.0	
	6月5日	3.800	2.200	1.000	57.8	45.4	26.3	15.0	
	計(平均)	56.430	20.045	11.060	35.5	55.1	19.5	14.2	
	1株平均	11.286	4.009	2.212					

(5) 考察

定植以来の生育は順調でミドリカイガラムシ以外には特別の病害虫の発生を見ず、開花結実共に良好であった。

収穫は1月から6月の間5回に分れ、4月の2回が収穫量が多かった。

収穫は赤く熟したものを手で摘果し、秤量の後、天日で乾燥し、臼で搗いて市場コーヒーとしたもので即ち乾燥式調製法によるものである。

試験区別の成績を見るに、市場コーヒーの収量において4本植は1本植の4倍とはならず、2~3本植が最多収量をあげることを見せる。この原因は1株に多数植え付ければ側枝が交叉して結実面は本数の割合に増加しないためである。

調製歩合は2本植区を除いて各区共6月5日収穫のものが高率を示しているが、これは収穫適期を少しく過ぎたため生果が樹上でやや乾燥していたのによる。

栽培上に障害はないが収穫期が雨季の終りに当たっているため、天日乾燥を行う場合、順調に乾燥せず、途中でカビを生じて品質を害することが考えられる。この危険を軽減するためには乾燥日数が少なくて済む浸水式調製法によるがよい。1株当たり市場コーヒーの収量が2kgであることは当地が植生上、コーヒーの適地であることを示しているといえる。

市場コーヒー100粒重は13~14gで非常に軽い。即ち小粒であることは商品として不利である。然しながら問題は飲料としての品質であるが、調製機具がないため豆を鉄鍋で焙煎して、摺り鉢で潰し、熱湯を注いで浸液の風味を見たり、香氣、味ともに良好とは云えない。但し乾燥調製法が満足なものではないので飲料としての品質は真価を見得なかったことも考えられる。品種の選択、栽培法及び調製法など今後の研究に待つものが多い。

IV 馬鈴薯栽培試験

(1) 目的

移住地で馬鈴薯の栽培が可能か否かを知る。

(2) 試験の方法

(i) 供試品種

"Tropical Americana"

(ii) 試験区別及び面積

試験別	ススプルン消毒	面積	区制
種薯2割区	実施した	25.2 ^m	1区
〃丸玉区	実施した	25.2	1区
〃丸玉区	実施せず	25.2	1区

(iii) 耕種の概略

畝巾株間: 0.700 m × 0.300 m

肥料: 配合肥料(15:15:15)を1区当り基肥として1kg, 追肥として6月27日に1kg施した。

農薬: ダイセン撒布 6月22日, 8月8日の2回

(3) 試験の経過

播種は5月28日、収穫は8月27日に行った。発芽後夜道虫の被害が多少あった。
疫病の発生を見たのでダイセンを撒布し被害は軽微であった。

(4) 試験成績

試験別	面積	上薯収量	肩薯収量	備	考
2ツ割 ウスカル消毒	25.2 ^{m²}	32.5 kg	7.4 kg	大薯に腐敗があった	
丸玉 ウスカル消毒	25.2 ^{m²}	43.0	5.9		
丸玉 無消毒	25.2 ^{m²}	42.0	5.0		

(5) 考察

従来、移住地では馬鈴薯は栽培出来ないと思われていたが、この品種で試作の結果、相当換算約5トンの収穫があることが明らかになった。自家用として或はサンタルス市に出荷することも考えられ、営農の上にも取り入れるべき作物である。

種薯は自給出来ないので国内で求められる。

V 稲の殺草剤に関する試験

(1) 目的

営農上、除草費を軽減するために薬剤による殺草の効果を知る。

(2) 試験の方法

(a) 供試薬剤

Geigy Gesagard 50 及び Stam F. 34

(b) 試験区及び面積

Gr. Gesagard 50 : 濃度 0.2% 区 $10m^2$, 0.4% 区 $10m^2$, 0.6% 区 $20m^2$, 0.8% 区 $70m^2$.

Stam F. 34 : ha 当り 12 l 区 (3.6%), $1000m^2$.

(c) 試験の概要

薬剤入手の時期と稲の生育との関係が同時に実施出来なかつた。Gr. Gesagard 50 の試験は試験農場の圃場で、Stam F. 34 の試験は農家の圃場で行った。

稲の発芽後、約20日で本葉3枚程度、雑草も本葉3枚程度の時に背負式噴霧器で撒布し、その後稲及び雑草の状況を観察した。

(3) 試験成績

(A) Geigy Gesagard 50 の成績

稲の品種: 白中65号 (畑栽培)

播種期: 1963年12月7日

薬剤撒布期: 1963年12月24日

(i) 稲の生育中に撒布した成績

区別	A区	B区	C区	D区
供試面積	40 m ²	20 m ²	10 m ²	10 m ²
薬液濃度	0.8%	0.6%	0.4%	0.2%
撒布液量	1 l	1 l	1 l	1 l

薬液撒布後の経過 (各区共通)

月日	天候	経過		備考
		稲	雑草	
12月24日	晴	健全	健全	雑草名は明かでないが本科を含む約5種類があった。
25	晴	健全	葉先やや変色	
26	日中晴夜雨	葉先やや変色	葉枯死始む	
27	曇	葉先少し枯死	葉枯死進む	
28	晴	葉の枯死進む	茎を残して枯死	
29	晴	"	"	
30	雨	葉茎を残して枯死	枯死	

注: 稲はこの後完全に枯死した。

各区の結果が同一であるが、A区は濃度の高い区は撒布量が少く、濃度の低い区は量が多いか? に反めであろう。

(ii) 稲の播種後、地上に撒布した成績

稲の種類: Pratao

播種期: 1963年12月29日

薬剤撒布期: 同日

薬液濃度 : 0.4%

薬液撒布面積 : 150 m²

結果 : 天候は播種日(撒布日)は晴天でその後2日間は雨、その後5日間は晴天であった。

稲の若芽は薬液撒布区も対照区も同時であったが、撒布区は若芽1週間が葉害が現われ、約半の稲は枯死した。対照区は2月6日に第2回目の除草を行ったがこの時迄撒布区は除草を行わなかったにも拘らず雑草の発生は非常に少なかった。そして欠株も見えない程の対照区に劣らない生育であった。

(B) Stam F. 34 の成績

(1) 稲の生育中に撒布した成績

稲の種類 : Amarelon

撒布時期 : 1963年11月22日

薬液濃度 : 3.6%

薬液撒布面積 : 0.1 ha

結果 : 天候は撒布当日から8日間晴天であった。

雑草は約5種類生えていたが3日目頃から枯れ始め、本葉3枚程度のものは全部枯死した。

鋤を使う除草では株間に生えている雑草は取りにくい、本薬剤によれば完全に除去出来、極めて有効である。

生長の進んだ雑草は葉先が枯れるのみで枯死しなかった。

(5) 考察

Greigy Gesagard 50 は稲の生育中に撒布すれば稲も枯死するので使用出来ないが稲を播種した地上に撒布すれば雑草の発生を抑えて極めて有効である。

Stam 7, 34 は雑草の本葉3枚程度に撒布すれば非常に有効であるが雑草の生長したものには効果が無い。従って撒布の適期を逸さないようにしなければならない。

kg当りの薬剤撒布労力は3人足らずで済むので人力による場合に比して遙かに少ないが、問題は薬剤の価格であって全部輸入品であることも需要量が僅少であるため現在では人力除草費よりも相当高価に付くので使用するわけにいかない。将来価格の問題が解決すれば営農改善に大いに役立つであろう。

VI 継続中の試験

栽培試験を実施中のものは次の通りである。

種類	面積	備考
ビニタ	0.20 ha	1 種
カカオ	0.90	6 種
柑橘	0.80	ポンカン他4種
その他果樹	1.00	マンゴウ他4種

ビニタ及びカカオは本年定植して管理中のものか否か栽培の適否等不明である。

柑橘はポンカン、タンカン、晩白柚等が、中には植付4年目が結実したものであるが若木のため収量も少く調査は行われなかった。

マンゴウ、その他果樹類を栽培しているが成績を見るに至っていない。

Ⅶ. 品種保存栽培

将来の試験及び増殖に備えて次のものを保存栽培した。

種類	面積	備考
シユート	0.20 ha	2 種
リナフ	0.05	1 種
ローセル	0.05	1 種
トウモロコシ	0.01	キヌハ黄色他1種
緑豆	0.01	1 種
小麦	0.01	Trullio 他2種
香料作物	0.70	ベチバ他2種
緑肥作物	0.70	クロタリヤ他6種
薬用作物	0.01	吐根他2種
油脂作物	0.01	ヒマワリ他2種
甘蔗	1.00	NCO, 310 他2種

註：別に蜜蜂4群を飼育中である。

